

若者の政治参加のあり方～若者政党結成～

### 1. 解決すべき課題

#### 若者の政治参加の増加と地方議員の担い手不足の解消

- ・当選しやすい地方議会からワカモノ政治家を増やし、日本の民主主義を持続させる。

### 2. 問題意識

①若者の政治参加の少なさ：2019年参院選の18・19歳の投票率は31%（全体は49%）。16年の同投票率は47%。16%の低下。

②政策決定への若者の関与の少なさ：将来世代である若者の利益が損なわれ、若者の政治参加を一層少なくする悪循環。

③地方議員の担い手不足：無投票による選出の増加。民主主義の危機。  
(2019年の統一地方選挙：全国の40%の議会議員選挙で定員を超える立候補者がなかった《600名が無投票当選》。31年間無投票当選が続く自治体も実在)

⇒地方議会に若者が活躍する活路を見出し、若者の力で地方が活性化する未来を実現すべく、若者を代表する政党＝「若者政党」を結成し、地方議会に送り込みたい。

### 3. 現在の課題解決策と問題点

#### ①選挙制度改革案：

- ・世代別選挙制：代表としての正当性の歪み、高齢化による「50歳の年少区」など。
- ・義務投票制：主権者の自発的な政治参加意識を置き去りに。
- ・子どもに選挙権：子どもの数だけ親に余分に選挙権を付与（スイスで議論）。親権の乱用、一人一票の原則に反するなどの様々な批判。
- ・主権者教育：生徒が主体的に議論し、意思決定を促す取り組みが不足。  
※地方では「少年議会」「高校生課」などの取り組みも。  
その他、供託金制度の廃止または低金額化、被選挙権年齢の拡大、定数削減・議員報酬の増加など。

#### ②国のスタンスが時代遅れ

- ・1969年の文部省初等中等教育局長通知「未成年者が政治的活動を行うことは期待していないし、むしろ行わないよう要請」（当時の学生運動が背景）のスタンスは変更がなく、時代遅れでは？

## 4. 提言

### ○「若者政党」の立ち上げ

- ・若者が注目するのは、自分たちに関わる政策や同世代の発言。25歳以上しか立候補できない現行の制度では若者の共感を呼べない。
- ・地方行政への「ヨソモノの視点」の流入、世代交代の促進、関係人口の増加なども狙える。
- ・スローガンは「ワカモノが維持する・変える未来」。15歳～25歳の若者が全員参加し、若者が主体的に運営する「若者政党」を立ち上げる。  
(マニフェスト)

(1) 議会革命 (テレワーク議会の推進)

(2) 就活革命 (キャリアアップとしての「政治家」の選択肢化。政治活動が評価される社会に)

(3) 格差革命 (無償型奨学金の給付)

(4) 議員革命 (居眠り罰則規定、学術的な知識習得の機会の提供等)

(5) 健康革命 (朝食習慣の定着化)

(6) 地方革命 (発信力強化による関係人口の増加)

### ○政党交付金改革

「政党の規模に応じた分配」から、選挙の際に個人や政党に1票を投じると同様に250円の使い道(政党)を「国民が選択できる方式」に変更。

(作成：事務局)